

## 若手研究者の活躍を促進するために

「科学技術振興調整費」若手研究者の自立的な研究環境整備促進」

プログラムと取組例」

文部科学省

科学技術・学術政策局 基盤政策課

東京農工大学 若手研究支援室

若手研究者に活躍の機会を与え、優秀な人材を確保することは、我が国の科学技術創造立国の実現のために不可欠です。文部科学省では、平成一八年度より、若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進するため、科学技術振興調整費（政策誘導型の競争的資金）により「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」プログラムを実施しています。

同プログラムでは、テニユア・トラック制（若手研究者が、任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積み、厳格な審査を経て安定的な職を得る仕組み）の導入を中心とした研究機関の取組を支援しています。平成二〇年度現在二八機関（三〇課題）を採択しており、各機関で

は、以下の三点の内容を含む独自の取組を行っています。

- ① 若手研究者の採用に当たって、テニユア・トラック制を導入する。
- ② 自立した研究活動を促進するための諸環境を整備する（スタートアップ資金の措置、研究支援体制の充実、研究スペースの確保等）。
- ③ その他、若手研究者の自立を促進するために必要となる研究組織の改革などの取組を行う。

例として平成一八年度に採択された東京農工大学における取組を次の章から紹介いたします。

### 一 東京農工大学におけるテニユア・トラック制の特色

東京農工大学は、農学と工学という二つの専門分野に特化し、研究を重視している非常にユニークな大学です。世界的な研究拠点大学となることを目標としており、そのためには、優れた若手研究者を育成することが最重要課題であり、科学技術振興調整費によるテニユア・トラック制の導入・定着を進めています。本学のテニユア・トラック制では、優れた若手研究者を採用し、研究に集中できる環境を提供し、自己分野を確立できるように育成することを目的としており、特色は次のとおりです。

① 准教授を対象として、独立の研究室を運営していること。これは、アメリカのテニユア・トラック制の精神を踏襲しているものです。

② テニユア・トラック教員全員のテニユア採用枠を用意していること。アメリカのテニユア採用率は平均六割程度の競争率ですが、本学では本学の教育・研究水準に達していれば、採用することになっています。いうならば、他人との競争ではなく、自己との競争を基本としています。

③ テニユア・トラック教員を全学的に採用していること。農、工両学部ほとんど全ての学科・専攻において、テニユア・トラック教員を採用しています。本学の教

員は全体で四百名近くおり、そのうち二二名のテニユア・トラック教員を採用していますので、全体の五％、准教授に限りますと、一三％となり、テニユア・トラック教員の比率がかなり大きいといえます。

### 二 テニユア・トラック制の運用

（採用）

一八年度に国際公募を行いました。採用予定二二名程度に対して八一一名の応募がありました。選考は学外有識者の参加も得て、学科・専攻ごとの一次選考、全学的評価を行う二次選考の二段階審査を行い、二二名を採用しました。

応募者のうち一八八名が外国籍であり、また、八二名が女性でした。採用者の内訳は、二二名のうち、三名が外国籍であり、五名が女性です。なお、自校率（前職が本学）は二二名中三名となっています。

（テニユア・トラック教員の環境整備）

テニユア・トラック制を円滑に導入するため、若手人材育成拠点を特区として設置しています。採用されたテニユア・トラック教員は拠点に所属していますが、既存の学科・専攻の建物の中に居室と研究室を持ち、学生を指導するな

ど、事実上、正教員と同等の活動を行っています。

自立的な研究環境を整えるため、テニユア・トラック教員には、最低でも五〇平方メートル以上の専有スペースを配分しています。初年度には、スタートアップ資金として研究費を七百万円、居室等の改修費として百万円配分し、二年度目以降には、三百万円の研究費を配分しています。さらに、研究に集中するために、大学の管理運営業務を大幅に軽減し、研究分野での自己確立を促しています。また、教育能力の育成のために、研究の支障にならない範囲で授業を二科目ほど担当しています。

#### (若手人材育成拠点の運営)

拠点内に運営委員会を設け、テニユア・トラック制導入における様々な懸案の検討、学内における各学科・専攻等との調整を行っています。また、テニユア・トラック教員の事務的支援を行う若手研究支援室も設置し、支援体制を整えています。さらに、拠点の運営を外部からの視点で評価するため、外部有識者を交えた総合評価委員会を設置しています。このほか、テニユア・トラック教員の育成を図るため、次のような方策を取っています。

① 既存の学科・専攻の中で、うまく活動できるように、協力教員を指名し、自立を損ねない範囲で、支援・指

導を受けることができるようにしています。

② 拠点の経費による海外出張費の支援制度を設け、海外に向けた研究発信や人脈形成、研究連携の開拓等を促進しています。

③ テニユア・トラック教員同士で、自分の研究内容を紹介し、質疑応答も含めて、一人一時間程度の発表を行う、分野横断的な交流会を開催しています。これにより、自らの専門分野以外の幅広い知識の獲得と学内共同研究の発掘を目指しており、実際にテニユア・トラック教員同士で、いくつかの共同研究も始められています。

④ テニユア・トラック教員の年次評価については、各教員に対して外部専門家二名を招へいし、学科・専攻の教員と一緒に二時間程度の研究レビューを行っています。これにより、客観的な評価が得られるとともに、有益な助言を得ることができます。

以上の支援体制を整えていることもあり、各テニユア・トラック教員の研究活動状況は、極めて高く、科学研究費補助金の採択率は、新規と継続を合わせて、七八%となっており、本学平均の四八%を大きく上回っています。

#### (中間評価・最終評価)

三年目、五年目には、それぞれ評価を行うことにしてい

ますが、三年目には特に優れている教員には、テニユアを付与することになっています。そのため、テニユア・トラック評価委員会を設けており、三年目、五年目の評価基準を作成しています。評価基準は、研究の進捗度、論文の量と質などを目安としますが、専門分野が異なりますので、一名ごとに評価基準を作成しています。

### 三 大学独自予算によるテニユア・トラック制

科学技術振興調整費では、初年度二二名の採用で、その後の新規採用はありませんが、二〇〇八年四月から本学独自予算によるテニユア・トラック制を開始しています。

予算の関係もあり、科学技術振興調整費による支援体制を全て反映することは、難しい部分もありますが、スタートアップ資金に関しては、大学本部、採用予定学府、採用予定学科・専攻とで同率を負担することを原則としています。また、専有スペースの提供、管理運営業務の軽減、協力教員の配置等の支援体制を整備しています。

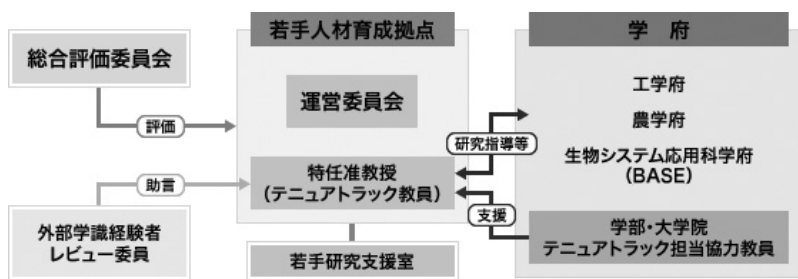
二〇〇八年度新たに採用することになった准教授は、四名ですが、全てテニユア・トラック制で採用することにしており、一〇月には一名が着任しています。

今後は、現行の採用方式とテニユア・トラック制とは並

列することになりますが、すでに、研究・教育能力の確立した教員には、現行方式を適用することになっています。

なお、本学では、テニユア・トラック制と並行して、サバティカル制度や、教員の再審査制度等の人事制度改革を進めています。

また、日本型テニユア・トラック制に関するシンポジウムや、科学技術振興調整費採択大学間連絡会を毎年開催し、テニユア・トラック制への関心を高めるとともに、大学間の情報交換の場を提供しています。



東京農工大学におけるテニユア・トラック制運営体制